

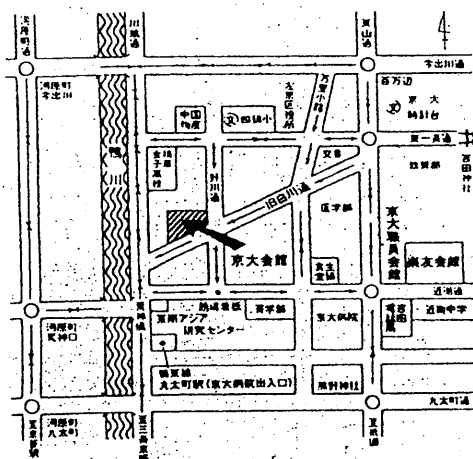
# 大学図書館問題研究会 京都

〒607 京都市山科区大宅山田町34 京都橋女子大学図書館 小林倫道気付  
 (Tel) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

## 第17回 京都支部総会

日時：7月8日(金) PM6:30~

場所：京大会館 (105号室)



(京大会館)

- 京都駅より市バスA2のりば(206系統)東一条下車
- 四条京阪(南座向い)より市バス(201系統)(31系統)東一条下車
- 三条京阪南口より京都バス5番のりば(出町柳経由系統)荒神橋下車
- 京阪電車鴨東線丸太町駅下車徒歩約10分

〒606 京都市左京区吉田河原町15-9 (TEL) 075-751-8311 (FAX) 075-761-5403

(京大大代表753-7531 内線7612)

次頁  
以下 大会議案書 「総括&方針」

## 第17回大学図書館問題研究会京都支部総会議案書

### 第1号議案

#### 1993年度活動総括(案)及び1994年度活動方針(案)

はじめに

大学をめぐる情勢は、18歳人口の減少期を迎える中でドラスティックな変化を見せてきています。とりわけ、大学が果たすべき社会的な役割や期待が大きく変化してきています。たとえば、技術革新や産業構造の変化に伴うリカレント教育の担い手としての役割や生涯学習社会のセンターとしての役割なども期待されています。また、国際社会への貢献という意味においては、大学における留学生政策なども今後、より積極的に展開されて行くでしょう。これらのいわゆる「大学の開放化」に伴って、大学図書館自体の社会的な開放の要請や新しいニーズに如何に応えて行くのかということをも「現場から」具体的な提案を行い、実施して行く時期が来ているのではないのでしょうか。

また、大学図書館のネットワーク化や学内LANの整備が進む中で、我々の仕事のスタイルだけではなく、図書館のサービスの中身自体も大きく変化してきており、従来の印刷媒体とは異なったCD-ROMをはじめとした電子媒体の資料も増加してきています。

このような図書館の情報化やネットワーク化が進む中で、これらのツールを使いこなし利用者サービスの向上に繋ぎうる新たな力量形成が必要となってきています。一方では、このような新しい課題だけでなく、従来から問題とされていた収書や保存の問題なども山積しています。

大図研京都支部としては、従来活動に加え、図書館員の新しい力量形成に向けて、日常業務の中だけでは得難い活動を展開すべく努力をしてきました。

そこで、以下において1993年度の活動総括案と大図研京都支部の活動をより発展させるべく、1994年度の活動方針案を提案して行きたいと思えます。

#### 1. 1993年度活動総括(案)

##### 1) 研究活動の重視

1993年度は、昨年度に引き続き研究団体をしての色彩を濃くするため、研究活動の重視を活動の柱にすえました。

この研究活動の重視は、個々人の日常的な活動では、得られない情報等をいかに会員に還元して行くのかであり、これらを契機として、会員同士の研究がさらに深まっていくことを目的とするものです。

1993年度の大図研京都支部の様々な活動は、この視点を柱として展開されてきたものであり、この視点からを中心に個々の活動について総括していきたいと思います。

## 2) 支部報の発行

支部報の発行については、目標であった毎月1回の発行を今年度も成し遂げることができました。

この支部報は、会員間のコミュニケーションの促進、研究成果の発表の場、京都支部の活動報告の場としての役割を果たしてきています。

今年度は京都支部の活動をいかに全会員に知らせて行くのかを柱にすえ、大図研大学や大学図書館員京都研究集会についての支部委員会での議論、参加者の感想、さらには報告集の作成と、より丁寧な紙面づくりを行ってきました。

また、読みやすい紙面づくりという観点からは、資料紹介なども組み入れ大変好評でした。

そして、今年度からは原稿はすべてフロッピーとし、色々なフォーマットを変換し、支部報における機械化にも取り組みました。

今後も読みやすく、たのしく、そして役に立つ紙面づくりに取り組んで行きたいと思えます。

ただし、執筆者が固定化しつつあることも事実であり、もっと幅の広い会員層から原稿を集められるよう改善しなければならないでしょう。

## 3) 第Ⅲ期大図研大学について

第Ⅲ期大図研大学については、「情報管理論」をメインテーマとし、講師に同志社大学の山城先生、三重大学の柴田先生をお招きし、半年間にわたって、計6回の連続講義を実施しました。

日曜日であるにもかかわらず、遠くは広島、名古屋からも駆け付けて頂き、計63名の受講生が集まりました。

この大図研大学では、毎回講義アンケートを取り、これに対して大図研通信など通じて受講生に返して行くことをしてきました。

メインテーマであるこの「情報管理論」は、事前の丁寧な議論および情宣活動(図書館雑誌にも掲載)と会員のニーズが的確に一致したということで大成功を納めることができました。会員からも新鮮な情報を得ることができたり、今までの知識を体系的に整理することができたなど、大変よかったという声が多く聞かれました。

しかし、一方では、現場に即した「情報管理論」という側面が弱かったように思われま

す。

そこで、京都支部としては、この大図研大学を受けて、「情報管理論」を現場から膨らませた形にして行くとともに、是非、これらの教訓を第Ⅳ期大図研大学に生かして行きたいと思います。

日 時	テ ー マ	受講者数
10/24	現代社会における大学図書館	43名
11/14	情報管理概論	31名
12/12	データベース概論	42名
1/23	データベース利用の実際	37名
2/20	図書館システム概論	31名
3/13	ニューメディア	36名
4/23	立命館大学 びわこ・くさつキャンパス メディアセンター見学会(オプション)	35名

[資料] 大図研大学「情報館理論」実施記録

#### 4) 第2回大学図書館員京都研究集会について

この研究会では、テーマを一本に絞らず、様々な方面からレポートを行っていただきました。レポートは、①「立命館大学雑誌コンテンツ検索システムについて」②「教科書の歴史とその所在を求めて」③「海外における出版物価格の高騰と図書館の対応」でした。

内容は盛り沢山で、好評でありましたが、大図研大学の開催中であつたなど時期的な問題もあり、参加者は残念ながら16名にとどまりました。

#### 5) 班活動と新たな活動の単位について

昨年度のところで、班活動はもっとも基礎的な活動であり、実践型の研究団体であるが故に班活動が極めて重要であるが、まだ時期的に成熟していないのではないかという総括を行いました。

今年度も、この班活動については、停滞が続いていると言わざるを得ない状況でした。しかし、一方では班活動を越えたレファレンス研究会やリブの会を作り、研究活動を展開してきました。今後も、このような会員のニーズに合った横断的な活動も重視して行きたいと思います。

この停滞状況である班活動への取り組みを支部委員会として、もう一度、何らかの形で各班に、返して行きたいと思います。

## 6) 財政活動について

今年度は、大図研大学の成功などもあり、特別事業基金への組み入れを行うことができました。会費中心の財政ですので、この財政は活動の根幹にかかわることであり、来年度においても積極的に取り組んで行きたいと思います。

## 2. 1994年度活動方針(案)

### 1) 研究活動のさらなる発展へ

研究活動の重視は、大図研京都支部の最も重要なテーマであり、1994年度においても様々な活動を通じて、この活動をより発展させていきたいと思っています。そしてこのことが、大図研京都支部の活動をより魅力あるものへと導いて行くことでしょう。

### 2) 第3回大学図書館員京都研究集会への重点的な取り組み

昨年度は、大図研大学開催中ということもあり、組織的に参加を募ることができませんでした。

今年度は、アンケートの実施も含め、丁寧な議論を行いたいと思います。

現状報告を致しますと、テーマについては、大学教育において問題発見・解決型の学生を養成するために、自ら必要な情報を収集し、加工し、発表する能力、いわゆる情報リテラシーが必要となることから、「利用者教育」を候補としています。また、参加型の研究集会とするために分科会の開催なども含め、現在支部委員会で検討中です。是非、ご意見をお聞かせ下さい。

### 3) 第IV期大図研大学に向けて

昨年度の総括（案）やアンケート結果を受けて、1995年度に開催する第IV期大図研大学に向けての取り組みを開始したいと思います。

#### 4) 支部報について

支部報については、1992年度に『京都の大学図書館』を発刊するために、財政的な問題から内部印刷に切り換えました。この『京都の大学図書館』は毎日新聞に掲載されたこともあって好評であり、完売することができましたが、印刷費の高騰により、支部報を外注することは、京都支部の財政では不可能な状態となっています。そこで、今後においても内部印刷の”手作りの支部報”でまかなう方向で了承して頂きたいと思います。

また発行は毎月を目指し、今年度は、とりわけ会員の研究活動の発表の場という側面に重点を置きたいと思います。

#### 5) 研究団体としての出版事業を展望して

特別事業基金を利用した、例えば、レファレンス研究会やリブの会などのプロジェクト研究会の出版事業を来年度以降のところで、是非、行いたいと思います。

#### 6) 横断的な研究会の組織

様々な研究会の組織を奨励し、研究集会や支部報での発表に繋がるようにしていきたいと思います。

#### 7) 会員を増やす活動

大図研及び京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。

このことは、大図研の活動を内容的にも、組織的にも、さらには財政的にも強化するものであり、各会員のところで意識的に進めていきましょう。

#### 8) 会費を全員が、全額を、前納します。

大図研の財政は、現状の活動が維持できないほど危機的な状況です。京都支部の会費納入率の動向は全国的にも大きな影響を持っており、京都支部の活動自体にも大きな影響を与えます。従って、会員としての義務である会費納入を全員が積極的に行いましょう。